

BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.42

<http://www.pref.chiba.lg.jp/svozoku/e/ichihai/bio/biotop.htm>



平成20年4月30日(水)

バイオマスプロジェクトチーム

新年度の御挨拶

「バイオマス立県ちば」の実現に向け、日ごろの皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。

おかげさまで、バイオマスを利用するための施設整備も進み、千葉県産のバイオマス製品も品揃えが増えて参りました。3月に幕張で開催された「G20ちばグリーン・グルズ閣僚級対話」においても、サンプスギ樹皮、竹を原料とする木質プラスチック製品のボールペンが採用されました。

今年度は、さらに新しい利活用推進に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

バイオマスの利活用が県下でさらに進むよう努力して参りますので、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

バイオマスプロジェクトチームリーダー 渡邊 等

1. 今年度の主な事業

バイオマスプロジェクトチームの20年度の主な事業は以下のとおりです。

「バイオマス立県ちば」アドバイザー委員会の開催
バイオマス利活用シンポジウムの開催
バイオマス用途開発の促進
地域バイオマス利活用交付金を活用した施設整備の支援等
エコフィード発見事業(食品残さの飼料化)

・今年度新規の事業です。

「エコフィード」とは、国内で発生した食品残さ等を利用した飼料及び食品残さ等を混合した飼料のことです。近年畜産農家のエコフィード利用の機運が醸成されてきたことから、食品業界(食品残さの排出業者)に対する飼料化の啓発や飼料化資源の掘り起こしを行うほか、県内エコフィードの本格的な流通を図るため、エコフィード製造会社、畜産農家等とのマッチングを推進していきます。

具体的には、各地に出向いて食品排出事業者に対し広報するほか、情報収集を行い、マッチングに係る調整を行っていきます。

バイオエタノール利活用の検討

・昨年度新たに設置したバイオマス庁内連絡会議バイオエタノール部会を開催し、バイオエタノールの製造や利用方法の可能性の検討を行うほか、バイオエタノール活用事例の現地調査、シンポジウムでの普及活動などを行う予定です。

2. 普及啓発活動

なのはなエコフェア in 大多喜

3月23日、大多喜町「味の研修館」で「なのはなエコフェア in 大多喜」が開催され、当チームも出展し木質プラスチック製品の展示などの普及啓発を行いました。

このイベントは「環境づくりは菜の花から」をテーマに、環境問題に取り組む企業やNPO等約20団体が参加し、町といすみ鉄道が取り組むバイオマス燃料（BDF）の啓発をメインに開催され多くの人でにぎわいました。



～ B D F 施設の完成～

3月27日、大多喜町弥喜用の町環境センターにバイオディーゼル燃料（BDF）製造施設が完成しました。これは、各家庭から回収された廃油（てんぷら油など）をプラントで燃料に変える設備で、製造されたBDFは町内を走るいすみ鉄道の燃料や、将来的には公用車などにも使用される予定です。



県立中央博物館シンポジウムでのエコデコイの紹介

3月29日、県立中央博物館でシンポジウム「砂浜の野鳥たち - 九十九里の景観とともに」が開催され、県主催の「千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクト」で開発された木質プラスチックを原料とする小鳥型のデコイ「エコデコイ こがもちゃん」を紹介しました。「こがもちゃん」は原料の70%がサンプスギの樹皮、間伐材などの千葉県産木質バイオマスであり、木材を原料としているため、ひとつひとつ風合いが違うバイオマスプラスチック製品です。

また、近年カモ類は全国で個体数が減少しており、その現状の周知・啓発といった環境学習における教材としても期待されています。「こがもちゃん」は従来の石油由来のプラスチック製品とは異なり、水溶性アクリル絵の具での色づけも容易で、同時開催した「色付け体験教室」では、子供からお年寄りまで参加者に大好評でした。

